

Stand UP! NO.35

2017年3月28日

発行責任者 佐久間 晃史

編集責任者 情 宣 部

いのちを守れ! フクシマを忘れない
さようなら原発全国集会

3月20日(月・祝)、東京・代々木公園にて「いのちを守れ! フクシマを忘れない さようなら原発全国集会」が開催され、集会の後には原宿・表参道などをデモ行進しました。

東日本大震災から6年が経過した今でも、避難者に対する差別や甲状腺がんの増加、原発作業員の被曝、更には3月末で打ち切られる「自主避難者に対する住宅支援」など、様々な問題が山積し被災者は苦しみ続けています。

原発事故に関する報道は日に日に小さくなり、世間の関心も薄くなりつつあるのが実情で、原発については色々な意見もありますが、ひとたび事故が起きれば私たちの将来に多大な影響を及ぼすということは明らかです。安心して暮らせる社会を実現するため、青年部としてこれからも脱原発の声をあげていきましょう!



原発のない福島を! 県民大集会

3月18日(土)、福島県郡山市で開催された『2017原発のない福島を! 県民大集会』に福島支部青年部を中心に参加し、小雨のぱらつく寒い中、主催者発表で5,700人の市民が結集しました。

東日本大震災、福島第一原発事故から6年が経過し、少しずつ元の暮らしに戻りつつあるように見えますが、未だに約8万人の人々が県内外で避難生活を強いられています。仮設住宅での孤独死などの原発関連死や子供への健康被害、家庭の敷地内に除染廃棄物が置かれたままになっている事を不安視する声は後を絶ちません。

今回の集会に参加し当時の記憶や脱原発の運動に対しての意識が薄れていた事を痛感しました。原発問題を他人事と捉えず、福島で働く仲間が安心して暮らしていけるように、改めて考え行動していきましょう!



安心して暮らせる日本へ! 共に声をあげよう!